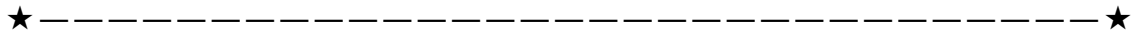


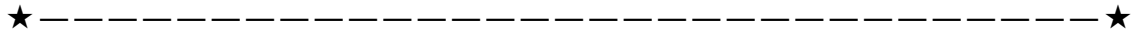


いわて マナビィ マガジン

No. 234 (令和3年度第19号) 2022.1.14



新年の「学び」がスタート！
～岩手ならではの正月行事を紹介します～



さあ、2022年がスタートしました！

新年の挨拶としては、「あけましておめでとうございます！」が一般的ですが、さて皆様、何がおめでたいのかご存じでしょうか？

私は単純に、暦が新しくなり、新しい年の始まりをとにかく祝っているのかと思っていました、もう少し深い意味があるようです。

かつて日本では、一年は穀物の種をまく「春」と、収穫する「秋」の二つの季節からなると考えられており、春の初めが一年の初めとされていました。これは、現在の「立春」の時期にあたります。つまり正月は、すべての生物が生まれる「春」だったのです。これを祝ったのが「正月がめでたい」ことの始まりと言われています。なお、「めでたい」という言葉は「芽出度い(めでたい)」から来ているとも言われています。

さて、今回は新年の学びとして、岩手ならではの正月行事についていくつか紹介したいと思います。

1 七草粥

七草粥には大きく分けて、下記の二つの系統があるようです。

- (1) 春の七草であるセリ、ナズナ、ゴギョウ、ハコベラ、ホトケノザ、スズナ(カブ)、スズシロ(大根)を炊き込んだ薄塩味の粥(かゆ)で、正月7日に七草粥を食べると病気になるという言い伝えがあり、各地で食されます。
- (2) 元々は米・粟(あわ)・稗(ひえ)・黍(きび)・小豆(あずき)など7種のものを入れて炊いた粥で、後には小豆粥となったものです。遠野地方では大根、ゴボウ、ニンジン、豆腐、コンニャク、セリ、芋を小豆粥に入れて、二戸地方ではセリやコンブを粥に入れて食べます。小正月に(15日)に食べる地域もあるようです。

2 庭田植え

東北地方で広く行われている行事で、雪の降り積もった庭を「田んぼ」に見立てて、松葉や稲わらを植えることで予祝(よしゆく=秋の豊作を祈願する)行事です。県南地方で広く行われ、一年の農作業の始まりのための儀式である「農はだて」の行事の一つで、小正月の時期に行う地方もあります。

予祝行事は家の主人や家族が行うのが一般的ですが、かつて盛岡地区では、町から大勢の早乙女（しょうとめ）が出て農家を回り、庭田植えの予祝行事を行うという風習がありました。

遠野市や西和賀町など、県内の農家で今でも行われているほか、奥州市で毎年2月第2土曜日に開催される「全日本農はだてのつどい」でも見ることができます。

3 田植踊

稲田の作業を舞踊化し、「物まね」をすることでその年の豊年を祈願する「予祝（よしゆく）」の意味を持つ芸能です。一般的には正月期間に行われ、屋外で演じる「庭田植え（踊り）」と、室内で演じる「座敷田植え（踊り）」に大別されます。

県内の田植踊りは気仙・東磐井（けせん・ひがしいわい）型、胆沢（いさわ）型、和賀（わが）型、中部型（盛岡周辺）などに分類され、中部型以外は庭田植え。「孫蔵」「弥十郎」「えんぶり」などと呼ばれる作業指揮者が進行役を務め、口上を述べ、作業開始を告げると、早乙女（しょうとめ）や、飾りを付けた棒を持った「奴（やつこ）」「あやとり」などと呼ばれる年少者が踊り、道化役の一八（いっばち）がそれを励まします。苗代づくり、田植え、稲刈りなど、作業を模した踊りが順番に踊られていきます。

早乙女が頭に冠った花笠を美しく回す紫波町「山屋の田植踊（やまやのたうえおどり）」が国の重要無形民俗文化財に指定されているほか、田遊びの芸能の一形態としては、県内では唯一、全国的にも希少な存在である北上市の「春田打（はるたうち）」が県の無形民俗文化財の指定を受けています。

4 スミ付け祭り

別名「せあとたき」ともいわれる奇祭で、約400年前から矢巾町城内地区に伝わる千手観音の年越し行事にあたり、城内山中腹にある實相寺（じっそうじ）裏の観音堂で行います。

毎年2月の第1土曜日に町内外から参加して火難よけや無病息災、安産を祈り、お互いの顔に炭を付け合う祭りです。

5 門付け

門付け（かどづけ）、地域によっては門打ち（かどうち）と呼ばれます。

人家や商店の門口に立ち、音曲を奏したり芸能を演じたりして歩くこと、または、その人のことを言います。

正月の門付けといえば全国的には「獅子舞（ししまい）」が知られていますが、県内では「獅子舞」のことを「大神楽（太神楽）」といいます。また、神楽の権現舞（ごんげんまい）を行う地域もあります。

6 若水送り

新年を告げる一関市東山町の伝統行事。

平泉藤原文化の時代、秀衡公が元日の朝に、里人に磐井清水の若水を汲

ませ、手送りで平泉柳之御所へ届けさせたという故事を伝説に基づき再現したもので、平成5年から行われている、元日恒例の行事です。

古式さながらの白丁（白装束）の衣装をまとった一行が、一関市東山町から平泉中尊寺までの約20キロの道のりを、若水桶を地につけることなく歩いて若水を届けます。厳寒の中を両町の間をそびえる2つの峠を越え、180人が手から手へとリレーします。

（※記載内容は、県文化スポーツ部文化振興課のホームページの内容より引用したものです。）

県文化スポーツ部文化振興課（文化芸術担当）ホームページ
「いわての文化情報大事典」
↓↓↓↓↓
<http://www.bunka.pref.iwate.jp/>

「いわて県民計画（2019～2028）」においては、「生涯を通じて学び続けられる場をつくる」ことが位置付けられており、県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、自然・文化・歴史など有形・無形のあらゆる資源を学びの対象や場とすることにより、「岩手ならではの学習機会の提供」に取り組むことが盛り込まれています。

コロナ禍がまだまだ終息しない状況ではありますが、本年も関係者の皆様方と共に岩手の学びを盛り立てていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします！

★-----★
本年度の研修会は、ラスト2つです！

★-----★
本年度の当所主催研修会は、2つを残すのみとなりました。
当センター周辺道路は、現在、常時凍結している状況ですので、どうぞ交通安全にお気をつけてお越しく下さい。

【今後の研修会等実施予定】

2月 3日（木）～4日（金）

県生涯学習推進研究発表会

（※参集&オンラインの参加者選択制で開催予定）

14日（月） 子育て・家庭教育相談担当者研Ⅱ

（※参集型で開催予定）

※開催要項・実施報告書は、当センターのHP「まなびネットいわて」でご覧ください。（中段の「新着情報」または上段の「事業計画・研修講座要項」内に掲載中）

↓↓↓↓↓

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

※開催の有無、実施方法・内容の変更等があればHPでもお知らせします。

【生涯学習電話相談「マナビィコール」】

研修会・講師情報等のお問い合わせ等は下記までお気軽にどうぞ！

当センターで行っている「学び」全般の相談ダイヤルです。

↓↓↓↓↓

<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/soudanshien/manabiikoru.html>

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||

▶ご意見・ご感想、登録・登録解除等は下記アドレスまで

⇒ E-mail ; mag-manabee@pref.iwate.jp

▶生涯学習・社会教育関連情報は当センターHPから

⇒ <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

▶当センターの情報をSNSにて配信中

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【 Twitter 】 <https://twitter.com/manabinetiwate> Facebook・Twitter

||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||||iwatemanabeemagazinelll|||

発行：岩手県立生涯学習推進センター（花巻市北湯口 2-82-13）

編集：菊池 一洋